

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2011 年 4 月

IEC/TC89(耐火性試験)シアトル会議

IEC/TC89 の国際会議が 2010 年 10 月 10 日～14 日、米国のシアトルで開催された。参加国は、米国、英国、ドイツ、フランス等 14 か国で、総勢 33 名の参加があった。日本からは、IEC/TC89 国内委員会の深谷委員 ((社)電線総合技術センター)、香月委員 ((独)製品評価技術基盤機構)、春原委員 (ポリプラスチック(株)) および乾 (乾安全規格事務所) の 4 名が参加した。

TC89 の会議が開かれたシアトルは、米国で 15 番目に大きい都市で、比較的安全な街である。会議は、WG11 (火災放出物)、WG12 (着火と燃焼の広がり)、AG13 (TC89 戦略)、PT 60695-1-13 (製品 TC に共通の耐火性クラス分けガイダンス) および TC89 全体会議が行われた。今回から WG10 (ガイダンス) は WG11 に併合された。以下、各 WG のトピックスをプラスチックに関係のあるテーマを中心に述べる。

1. WG11 会議 (火災放出物)

(1) IEC 60695-4 (耐火性試験用語)

日本のコメントどおり ISO 13943 (火災安全—用語) の定義を採用できるものは採用し、CDV へ進めることになった。

(2) IEC 60695-6-2 (燃焼発煙性—試験方法と適用のガイド)

3 m キューブ試験 (IEC 61034) はケーブル以外にも車両用材料の試験に使用されているので、試験の適用範囲を限定しないことになり、FDIS へ移行することになった。

2. WG12 会議 (着火と燃焼の広がり)

(1) IEC/CD 60695-2-10 (グローワイヤ試験—装置及び共通試験方法)

ワイヤが試料に当たる圧力を $\pm 1.0\text{N}$ (現行 $\pm 2.0\text{N}$) に規定することにした。銀の融点の公差を $\pm 15^\circ\text{C}$ から $\pm 5^\circ\text{C}$ まで狭めることについて、次回 CD で各国にコメントを求めることになった。

(2) IEC/CD 60695-2-11 (最終製品のグローワイヤ燃焼性試験方法)

10.2 項に記載されている、コンセクエンシャルテスト (Consequential Testing) に関して、PT 60695-1-13 で審議しているグローワイヤ試験による製品のクラス分けの概念を導入し、コンセクエンシャルテストが必要となる場合は、製品規格にその旨を記載するよう要求する旨の内容を次の CD に挿入することにした。

このクラス分けでは、炎の継続時間は、30 秒未満、5 秒未満、2 秒未満および非着火の 4 段階で判定される。

(3) IEC 60695-2-12 (材料のグローワイヤ燃焼性試験方法)

日本提案により、試験結果のばらつきを少なくするため各温度で 3 回の試験を実施するという大きな技術的変更を加えた FDIS が承認された。

(4) IEC 60695-2-13 (材料のグローワイヤ着火性試験方法)

2-12 と同様、各温度で 3 回の試験を実施するという変更を加えた FDIS が承認された。

(5)IEC 60695-2-20 (ホットワイヤ着火性試験方法)

プロジェクトチームで各国コメントの審議を行ったが、終了しなかったため、電話会議に持ち越しになった。電話会議では、UL746A の試験方法との関連性を持たせる方向に動いている。

(6)IEC TS 60695-11-11 (火炎からの熱流束による着火性試験) : 本規格は日本提案。

次年度メンテナンス開始となる。そこで今後の扱い (IS 化、TS 延長、廃止) を決定することとなる。

(7)IEC/CD 60695-11-10 (50W 試験炎による燃焼試験)

クランプまで燃え上がる試料の判定が難しいので、図で示すことになった。

(8) IEC/CD 60695-11-20 (500W 試験炎による燃焼試験)

日本提案 (5 秒間バーナ固定法) についてプロジェクトチームで検討することになり、次回までにラウンドロビン試験を行うことになった。

3. その他

500W および 50W 炎燃焼試験装置の規格 TS 60695-11-3, 11-4 は、IS に移行するために一旦 CD に差し戻すことになった。

ボールプレッシャー試験の改訂審議も行われたが、日本でへこみ深さの測定による方法を検討して提案することになった。

次回の会議は 2011 年 5 月 3 日～6 日に、スペインのバルセロナで開催される予定である。

報告：日本プラスチック工業連盟
電気材料安全・規格委員会派遣
乾 泰夫 (乾安全規格事務所)